



お客様の夢を希望へ、 希望を製品へ、そして進化へ

あいさつ
会社の歳時記
技術の時間
ちょっとコーヒータイム

Vol.17

(有)今泉大伸



〒441-3131
愛知県豊橋市大岩町字小山塚62-28
:0532-41-8282
FAX:0532-41-8297
E-mail info@imaizumidaishin.co.jp
<http://www.imaizumidaishin.co.jp>



このたびの東北地方太平洋沖地震災害により、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様、そのご家族の方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。

旧の正月気分も中間までで消えて、
新たなる前進をしているところです。

1月には去年にやり残した仕事の処理
や、新たに判明した問題点の克服に向け
頑張っている所です。

しかし一歩眼を内に向けると、景気
のこと、円高のことなど、さまざまな
事で心配になる材料はありますよ!!

消費税の問題もろもろにより、企業
には経費のかかることが多くありま
す。

そして製品の価値は安くなる一方
です。

このようなことを考えますと、売
上げを上げ利益を出すことが本当に難
しいのだなーと感じました。帝国デー
タバンクの調べによりますと、中小企
業の倒産・廃業の件数が増えているん
ですって。

本当に正念場なのかもしれません。
日本経済。

その中でも私たちは私たちのできる
ことでガンバルしか無い気がします。

こんな中でも少しリラックスして、
ニュースレターをご覧ください。

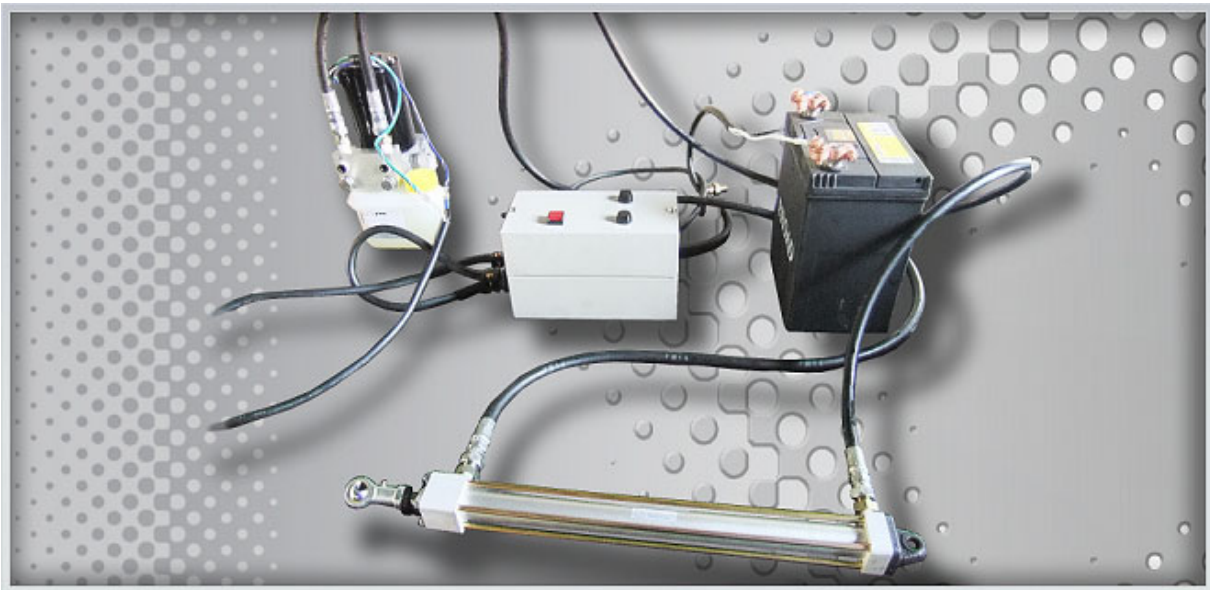


会社の歳時記

ジャッキアップ用のDC12V電源で動くシステムを作って欲しいというご依頼がありました。

写真的には以下の物と同等の物ですが、制御については少し複雑な動きをすることになりました。

発注があった時点において、ある程度のことは解ってはいたつもりだったのですが、しかしお客様の取り付けの段階で継手を外したのち取り付けをした際に、締め込みがあまく継手のネジをダメにしてしまったと言われました時には大変焦りました...!!



そこで、まずこちらに返却をして頂いて、油圧のカプラを装着して客先に返送致しました。

その後客先で試験をして、上手く動作し、満足されたようで胸を撫で下ろしました。

お客様の中でDC12V・DC24V駆動用油圧システムを必要な方が居られましたら、当社に一度声をおかけ下さい。

本日の会社の歳時記は、DC12V電源用油圧システムについてでした。

自分の中から相手に与えることによって、技術は伸びる

.....
平静な心.....その後

前回、平静な心が大切だということ
を述べました。

そして、その後どのようになったの
か？

平静な心でいることで、事前に失敗
が回避されることがあるのです。

自分の心が舞い上がっている時は、
そのことに集中してしまい、なかなか
失敗を回避することはできません。

また、どんなに注意をしても、そ
れがうまくいかない時があります。

そんな時、フローの状態にあると、不
思議とうまく回るのだそうです。

その、フローの状態になる手前はな
にか。

それは『**平静な心でいること**』。...
何か禅問答のようで申し訳ないのです
が....

やはり、この道を通り越さないだと
ダメなのではないでしょうか。

さて、その後.....

どうやら失敗が事前に発見されるよ
うになってきたようです。

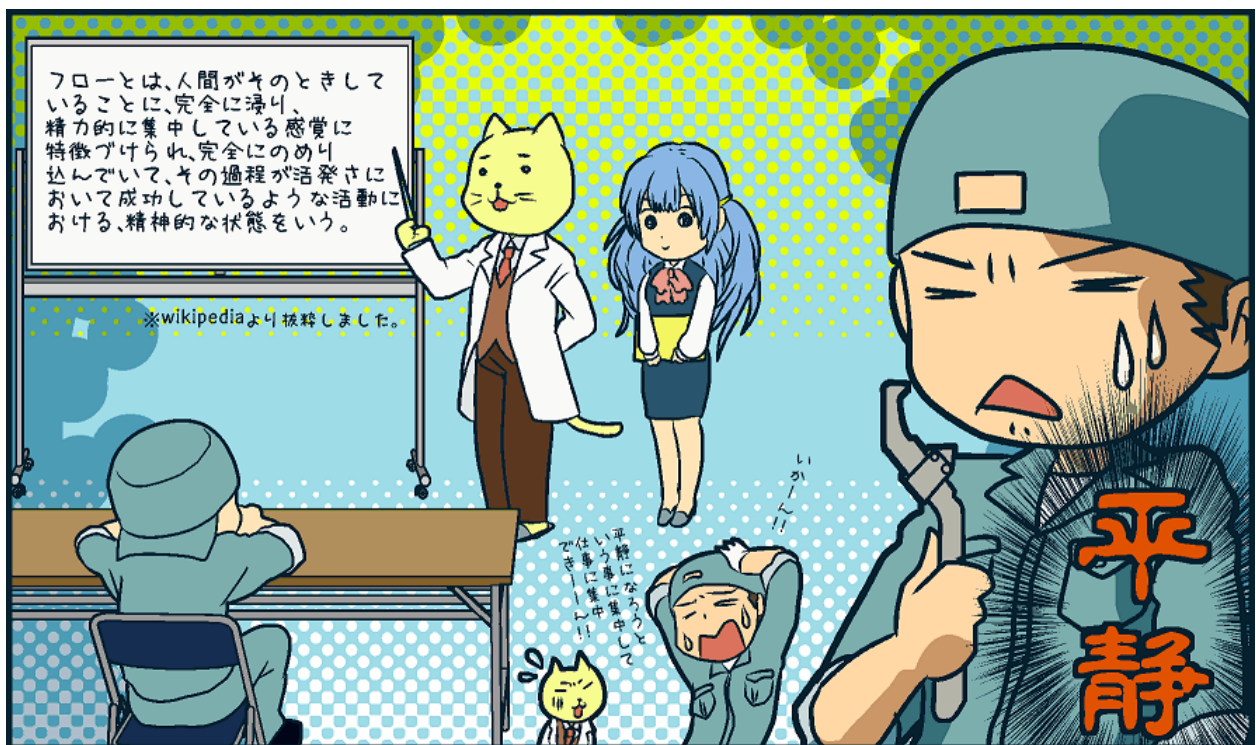
その為に効率が上がったことも確か
です。

新人を育てるにも、お客様に対応す
るにも、今の時代は変化が大きい事が
あげられます。

人を変化させることはできなくても、
自分を変化させることはできますよ
ね!!

そこから自分が変われば、自然と人
も変わっていくと思います。

今回の技術の時間は『**平静な心**
.....**その後**』でした。



ちょっと コーヒータイム

今日のちょっとコーヒータイムは、最近読んだある一冊の本についてです。

『永遠の0』という題の本で、太平洋戦争のベテラン0戦パイロットの話です。

まず、どのような本なのかと解説をサラッと見たのですが、なんと故・児玉清さんが絶賛されておりました。

児玉さんと言えば色々な文学に精通し読書家であったことは有名です。

そのような人の本ならばと読みました。

もともと自分は太平洋戦争の負け戦の原因に興味があり、予備知識は少しありましたので、本当に食い入るように読みふけることができました。

結果今の日本の現状と、日本の組織のあり方が現在とその当時とだぶって見えたのが怖かったです。



永遠の0(ゼロ)
著者: 百田尚樹
太田出版

今の時代は、自分さえ良ければというところがどこかにあるように思います。

その当時(大戦中)は、軍のトップにその考えがあったように思われます。上の機嫌を気にするなど、本当にそれがダメにしたんだなーと思いました。

では自分はどうなんだろう。そう考えるとムー!!

反省することもあると思います。一度読んで頂ければと思います。



日本軍敗色濃厚ななか、生への執着を臆面もなく口にし、仲間から「卑怯者」とさげすまれたゼロ戦パイロットがいた…。人生の目標を失いかけていた青年・佐伯健太郎とフリーライターの姉・慶子は、太平洋戦争で戦死した祖父・宮部久蔵のことを調べ始める。